サンスクリット語文法ノート (8)

延長要素 -i- を含む語根について

松浦　高志

1　はじめに

√śā ‘to sharpen’ の現在が，第 III 類では śí-*śā*-ti になるのに対して，第 VI 類では *śy*-á-ti になるように，語根が -ā で終わっているのか，-i（あるいは -ī）で終わっているのか不明な語根がある．これは，いくつかの語根においては，すでに印欧祖語の段階で**延長要素 -i-** が付加される場合があったことが原因であり，また ī となることがあるのは CHiC > CiHC のように**喉音転置**が起こることが原因であると考えられている．

2　代償延長と喉音転置

喉音転置（laryngeal metathesis）は，-ā で終わる語根に，延長要素 -i- が付けられたときによく起こる．まず，-ā で終わる語根について考える．-ā で終わる語根は，一般に印欧祖語の段階では C を子音，H を喉音として *CeH- という構造をもつ．このような語根が完全階梯（full grade; guṇa に相当）になり，次に子音が続けば，*CeH-C- > *Cē-C- のように喉音が脱落するのに伴い前の母音が延長される．これが**代償延長**（compensatory lengthening）である．一方，このような語根が零階梯になり，次に母音（V）が続けば，喉音が脱落するだけで *CH-V- > *C-V- になる．

さて，*CHiC という構造をもつ音節では，喉音が脱落（のみ）して *CHiC

> *CiC となるように思われる．しかし実際には *CīC で現れることがある．これは CHiC > CiHC のように喉音転置が起こった後で代償延長が起こり生じたものと考えられている[1]．

3　√pā「飲む」の例

延長要素 -i- と喉音転置の例としては，√pā ‘to drink’ がわかりやすい．現在時称（第 I 類）の píbati では延長要素 -i- は用いられていないが，過去分詞（過去受動分詞）pītá- (< *pih₃-tó- < *ph₃-i-tó-) では延長要素 -i- が用いられており，喉音転置が起きている[2]．名詞 pītí-「飲むこと」（ṚV+）でも同様である．また使役相（causative）でも pāy-áya-ti (< *peh₃-i̯-éi̯e-ti) のように延長要素 -i- が用いられている（この場合，喉音転置は起きていない）．ほかに，たとえばギリシア語では命令法アオリストに pī̃-thi (2 sg.) という形態があるので，これらと比較できる．

4　語源辞典での説明

このことは，たとえば *EWAia* では，GĀ² の項目（i.482–483）の注釈に書かれており，*CeH- という語根に，現在幹をつくる接辞 *-i̯- を付すことによってつくられる，いわゆる「『長二重母音』語根」（„lang-diphthongischer“ Wurzel）に由来すると説明されている．またさらに Mayrhofer, *Lautlehre*, 174–175 を参照するように，との指示がある．

5　延長要素 -i- を用いる語根の例

以下では，延長要素 -i- を用いる語根が，語源辞典（*EWAia*, *LIV*）でどの

---

[1] Beekes, *Development*, 174–177; Hammerich, *Laryngeal*, 35–37.

[2] ゴンダ『文法』§102 (p. 81)でも，°ā または °ai で終わるいくつかの語根の過去分詞が °ī で終わることが述べられている．

ように書かれているかを，関係する部分だけ抜粋し，さらに Whitney, *Roots* の見出しと，関係する形態を挙げた．ただしそのような語根すべてを挙げているわけではないことに注意．またそれぞれの語根の Whitney の項目においても，延長要素 -i- を用いる形態すべてを挙げているわけではない．

√gā ‘to sing’

Whitney √gā (2): (ppt) gītá-.

EWAia GĀ²: idg. wohl *geh₂-i-. [i.482–483]

LIV *gᵘeH(i̯)-. [S. 183]

√pā ‘to drink’

Whitney √pā: (III) pipīte, (ppt) pītá-, (caus.) pāyáyati, (deriv.) pītí-.

EWAia PĀ²: idg. *peh₃/*ph₃- (~ peh₃-i̯-/*ph₃- → *pih₃-). [ii.113]

LIV *peh₃-(i)-.

(I) píbati では延長要素 -i- は用いられていない．

√pā (3) ‘to protect’

Whitney √pā (3): (deriv.) pāyú-.

EWAia PĀ¹: idg. wohl *peh₃- (mit *peh₃-i̯- aus -i̯-Präsens). [ii.112–113]

LIV *peh₂(i̯)-.

√rā ‘to give’

Whitney √rā (1) / √rās: (deriv.) rayí-, -rāya-.

EWAia idg. *reh₁-, vgl. lat. rēs (*reh₁-í-, aia. rayí-). [ii.442–443]

LIV *reh₁- (1): [Anm. 1] Nicht *reh₁i̯-; suffixales *-i- liegt vor in ved. rayí-/rā́y-.

√śā ‘to sharpen’

Whitney	√śā / √śī: (VI) śyáti, (root aor.) áśīta.
EWAia	ŚĀ: idg. *k̂eh$_3$(i̯)-. [ii.627]
LIV	*k̂eh$_3$(i̯)-.
***LIV* Addenda**	*k̂eH(i̯)-. [S. 45]

(ppt) śitá- (< *k̂h$_3$-tó-) では延長要素 -i- は用いられていない.

√sā ‘to bind’

Whitney	√sā (1) / √si: (VI) syáti, (IX) sināti, (caus.) sāyáyati.
EWAia	SĀ (~ SAY): idg. *seh$_2$-, Präs. *sh$_2$-i̯-éti. [ii.720–721]
LIV	→ *seh$_2$(i̯)-, *seh$_1$(i̯)- (sic!), *sh$_2$ei̯-.

EWAia では，第 IX 類の sināti (R̥V+) は，延長要素 -i- を用い，喉音転置が起こった *sih$_2$- (< *sh$_2$-i-) が新たな語根と見なされ，*si-né-h$_2$- となったものと説明されている[3].

凡例

+	以降.
***A**	A は想定形.
***g$^{\underline{u}}$**	印欧祖語の有声無気両唇口蓋音（= *g^{w}）.
***k̂**	印欧祖語の無声無気硬口蓋音.
***H**	印欧祖語の喉音（laryngeal）の包括記号.
***h$_x$**	印欧祖語の喉音（x = 1, 2, 3）.
***i̯**	印欧祖語の子音化した *i（サンスクリット語の y に対応）.

[3] 本ノートは 2022 年 5 月 23 日の梶原三恵子先生の「印度語学印度文学演習 III」（東京大学文学部）での発表資料に，若干の補足を行ったほかは，ほぼそのまま掲載したものである.

EWAia Mayrhofer, *Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen*.

LIV Rix (Hg.), *Lexikon der indogermanischen Verben*[2].

***LIV* Addenda** Kümmel, „Addenda“.

ヴェーダ文献の略号

Ṛ̊V Ṛ̊gveda(-Saṃhitā).

参考文献

Beekes, R. S. P., *The Development of the Proto-Indo-European Laryngeals in Greek* (The Hague: Mouton, 1969).

Hammerich, L. L., *Laryngeal Before Sonant* (København: Munksgaard, 1948).

Kümmel, M., „Addenda und Corrigenda zu LIV[2]“ (2015), `http://www.indogermanistik.uni-jena.de/dokumente/PDF/liv2add.pdf`

Mayrhofer, M., *Indogermanische Grammatik*, I.2: *Lautlehre* (Heidelberg: Winter, $_1$1986, $_2$2012).

———*Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen* (Heidelberg: Winter, 1992–2001).

Rix, H. (Hg.), *Lexikon der indogermanischen Verben*[2] (Wiesbaden: Reichert, 2001).

Whitney, W. D., *The Roots, Verb-forms and Primary Derivatives of the Sansirkt Language* (Leipzig: Breitkopf & Härtel, 1885).

ゴンダ，J.『サンスクリット語初等文法』（新訂）辻直四郎校閲，鎧淳訳（春秋社，1989）.